

産業考古学会は、産業遺産および関連の資料を研究対象として、史料調査を中心とする歴史学的手法とフィールドワーク調査を中心とする考古学的手法により、人間が築いてきた過去の生産活動の実態を科学的に解明し、その歴史的意義を探究する学問です。

産業考古学の研究対象である産業遺産とは、産業の形勢と発展に重要な役割を果たしてきた道具や機械、装置、建築物、施設、土木構造物、それらの図面、写真など、今日に遺されているものを指します。これらは、人類の歴史の重要な部分を実証する資料です。要約すれば、過去の人間の生産活動の結果として遺された有形記録資料の総体が産業遺産です。

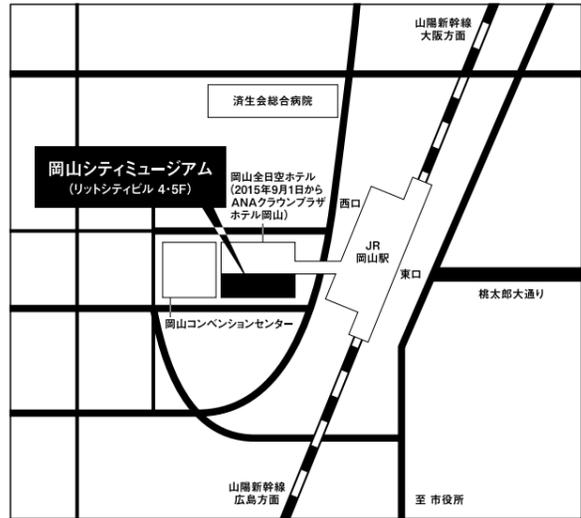
日本の産業と経済の発展に重要な役割を果たしてきた道具や機械、工場設備などの労働手段・技術は、生産力増強のための設備更新、新事業への転換などによっていつの間にか消えてしまっているのが現実です。多くの貴重な産業遺産が失われていく状況を憂慮した人々が全国から結集し、1977(昭和52)年、日本に産業考古学会が誕生しました。多くの産業遺産が世界遺産に登録されるなど、世界的に産業遺産をめぐる課題は重要になり、産業考古学の潮流はしだいに世界各国に波及していきました。今日では国際産業遺産保存委員会(TICCIH)が組織され、日本も重要なメンバーの一員として活動しています。

産業考古学は、あらゆる職業の、また多彩な分野の研究者・同好者が参加している「開かれた学会」です。産業考古学・産業遺産研究に関心をもたれる人は誰でも会員になることができます。産業考古学は、産業遺産の調査・研究、産業遺産の保存・活用(保存科学やヘリテージ・マネジメント)に関する研究の推進の他、産業考古学研究および産業遺産の保存の功労者の表彰、価値ある産業遺産の推薦顕彰など多面的な学会活動をしています。



名称 — 産業考古学会
 Japan Industrial Archaeology Society (JIAS)
 創立 — 1977(昭和52)年2月12日
 会員数 — 約600人
 会費 — 個人会員 年額 6,000円(会計年度4月～翌年3月)
 賛助会員 年額1口30,000円(1口以上)

学会事務局
 〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5小安ビル6階 株式会社プラス・ワン気付 産業考古学会
 TEL./FAX. 03-3835-2476(電話の対応は火曜日と金曜日)
 郵便振替 00170-1-418892
 メールアドレス jias@nifty.com
 ホームページURL <http://www.ricoh.co.jp/net-messena/ACADEMIA/JIAS>



講演会会場
 岡山シティミュージアム 岡山市北区駅元町 15-1 リットシティビル4階

講演会 お問い合わせ先
 岡山近代化遺産研究会事務局 〒716-8508 高梁市伊賀町8
 吉備国際大学社会科学部ビジネスコミュニケーション学科 小西伸彦研究室
 E-mail: nkonishi@kiui.ac.jp 連絡先: 080-3886-7030

「近代化遺産」シリーズ講演会は産業考古学会創立40周年記念事業として、岡山近代化遺産研究会を事務局に開催します。お問い合わせ等は事務局までお願いします。

産業考古学会創立40周年記念
 岡山シティミュージアム・ミュージアム講座

「近代化遺産」

シリーズ 講演会

会場 岡山シティミュージアム 講義室
 (第1回は、就実大学図書館5階AVホール)

今、「近代化遺産」がおもしろい!

第1回 2015年7月11日(土) 「産業考古学入門」 就実大学図書館5階AVホール
 岡山市中区西川原1-6-1
 13:00▶15:00 *12:30 開場
 講師 種田明氏 跡見学園女子大学教授・産業考古学会理事

第2回 2015年9月19日(土) 「世界遺産と産業遺産」
 14:00▶16:00 *13:30 開場
 講師 伊東孝氏 日本大学上席研究員・産業考古学会会長

第3回 2015年11月7日(土) 「石見銀山遺跡とその文化的景観」
 14:00▶16:00 *13:30 開場
 講師 中田健一氏 大田市教育委員会石見銀山課課長補佐

第4回 2016年1月23日(土) 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と日本の蚕糸業
 14:00▶16:00 *13:30 開場
 講師 大島登志彦氏 高崎経済大学教授・産業考古学会理事

第5回 2016年3月12日(土)
 14:00▶18:00 *13:30 開場
 基調講演 「明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼、造船、石炭産業」
 基調講演講師 市原猛志氏 九州大学百年史編集室助教・北九州市門司麦酒醸造館館長・産業考古学会理事
 シンポジウム 「近代化遺産の文化的価値と保存・活用」
 コーディネーター 伊東孝氏 パネリスト 種田明氏/中田健一氏/大島登志彦氏/市原猛志氏

入場料 — 無料(当日先着80名、全席自由) 主催 — 産業考古学会 共催 — 岡山シティミュージアム/就実大学史学会/吉備国際大学
 後援 — 岡山県/岡山県教育委員会/岡山県郷土文化財団/岡山市教育委員会/全国近代化遺産活用連絡協議会/山陽新聞社/朝日新聞岡山総局/毎日新聞岡山支局/読売新聞岡山支局/産経新聞岡山支局
 NHK岡山放送局/RSK山陽放送/RNC西日本放送/OHK岡山放送/KSB瀬戸内海放送/TSCテレビせとうち/oniビジョン(順不同)
 協力 — 岡山大学/岡山理科大学/大阪学院大学/新見公立大学/新見公立短期大学/ノートルダム清心女子大学/おかやま観光コンベンション協会/アート印刷株式会社(順不同)
 助成 — 公益財団法人 福武教育文化振興財団 協賛 — セルロイド産業文化研究会



1 石見銀山清水谷製錬所跡 2 石見銀山龍源寺同歩 3 石見銀山五百羅漢 4 飛船風穴(世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」構成資産) 5-6 富岡製糸場 7 八幡製鉄所旧本部署務所 8 三池炭鉱万田坑 9 クラバー邸

1

「産業考古学入門」

産業考古学は「産業遺産」を対象として調査・研究し、産業活動の過程を解明・評価し、「価値」が認定された場合は保存・公開・復元・(再)活用する方策を考察する学問分野です。私たちは、産業遺産は民族・地域社会・時代と伝統伝承の衣をまとった「文化財」であると考えています。

第1回は、このような学問研究分野が世界と日本にどのような契機から生まれてきたか(産業考古学前史)、誕生した「産業考古学」は地域／まちづくり・環境／建築／景観保全や修景とどのように関わっているのか(産業考古学の歩みと現在)、産業考古学会の意義、世界遺産との関連、今後の課題など(世界と日本の(世界遺産となった)産業遺産)について紹介します。

2015.7.11 sat

2

「世界遺産と産業遺産」

みなさんご存知のように今年の7月、「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録されました。わが国で産業遺産の世界遺産登録は、石見銀山について3番目になります。産業遺産は、文化財の中では新人に属します。産業遺産が文化財の仲間入りをしたのは、たかだかここ20年ぐらい前のことです。実は、世界遺産の中でも産業遺産は新人です。わが国で世界遺産がフィーバーしたのは、1990(平成2)年に入ってからなのですが、世界遺産自体は、それより20年前に条約が締結されており、40年以上の歴史があります。なのになぜ産業遺産は新人なのでしょう。講演会では、この辺の謎解きをしながら、次のような項目でお話しようと思います。

1. 世界遺産の成立とわが国の状況
2. わが国の条約批准と近代化遺産
3. わが国の文化財概念の変遷と産業遺産
4. Global Strategyと産業遺産

2015.9.19 sat

3

「石見銀山遺跡とその文化的景観」

産業遺産の面白さは、現地の遺構から、そこで働いた人たちが、いかに知恵を絞り、努力したのかを知ることにあります。遺産に留められた数々の痕跡は、先人たちの努力を知るかけがえのない資料といえるでしょう。2007(平成19)年に世界遺産に登録された石見銀山でも、銀山最盛期における備中早島生まれの山師、安原伝兵衛や、明治期の藤田伝三郎による藤田組の技術者たちなど、多くの創意工夫の跡が残されています。実はそこには、これら貴重な文化財を後世に残そうと努力した人々もありました。石見銀山での知恵と努力が、その後どのような広がりを見せ、ひいては現在の我々にどのように関連しているのかを読み解き、産業遺産の奥深さを探っていきます。

2015.11.7 sat

4

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と日本の蚕糸業

2014年6月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録されました。その前後から、同製糸場を訪れる人は急増し、蚕糸絹遺産・文化が脚光を浴び、各地に養蚕・製糸の体験工房が新設されたり、それに関連した話題も増えてきました。しかし、富岡製糸場が操業を停止した昭和末期以降、急速に縮小した日本の在来型の製糸工場は復活することなく、その原料となる繭は慢性的に不足しています。この講演では、戦後の高度経済成長期前半まで日本の産業の中枢だった蚕糸業の盛衰と現役の製糸工場などを、概観していきます。あわせて、講演者が現地でも聞き取りやアンケート調査を行った富岡製糸場来場者の動向や蚕糸絹文化に対する認識について、報告します。

2016.1.23 sat

5

「明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

2015(平成27)年7月にUNESCO世界文化遺産の仲間入りを果たした「明治日本の産業革命遺産—製鉄・製鋼、造船、石炭産業—」。基調講演では、全国8県11市に点在する23件の構成資産をシリアルノミネーションに基づいたストーリーで繋げた試みをはじめ、なぜ近代に造られた産業遺産にスポットが当てられ、今回の登録に結びついたのか。とりわけ講師が登録に際し一部関わった製鉄ストーリーについて、製鉄・製鋼と分けられていることの意味と八幡製鐵所が日本の産業革命に貢献してきた役割について、世界遺産に必要なUUV(類い稀なる普遍的価値)を見据えつつ、短期間に日本が歩んできた積極的な技術導入と独自の近代化にまつわる各種の遺産群について、わかりやすく紹介・解説します。

シンポジウム「近代化遺産の文化的価値と保存・活用」
コーディネーター 伊東孝氏
パネリスト 種田明氏／中田健一氏／大島登志彦氏／市原猛志氏

第1回から第5回の講演者が一堂に会すシンポジウムです。日本の近代産業を支えてきた遺産はどういう価値を持つのか、海外の遺産との違いは何なのか、それらをどう残し未来に伝えていくべきなのか、などについて意見を聞かせます。

2016.3.12 sat

種田明

講師紹介

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科・教授



ドイツ博物館研究員、「産業技術の歴史的展開調査研究」調査委員(海外担当)、国立民族学博物館共同研究員、トヨタ産業技術記念館展示計画調査研究会委員、静岡県「文化政策推進会議」専門委員、浜松市観光ビジョン策定委員会委員長、(財)日本観光振興協会・社会経済生産性本部産業観光推進会議委員などを歴任。現在、Deutsches Museum・VDI・ICOHTEC・GTG・SIAなど海外・学協会会員、産業考古学会理事(国際担当)、日本産業技術史学会理事、TICCIH日本代表・機関誌「Patrimoine de l'Industrie」Comité Scientifique委員、日本イコモス国内委員など。著書には単著に『ドイツ技術史の散歩道』(同文館出版、1993)、『近代技術と社会』(山川出版、2003)、共著に『産業革命の技術』(産業革命の世界②)(有斐閣、1981)、『現代のドイツ』第10巻(三修社、1982)、『機械と人間』(東京大学出版会、1985)、『イギリス近代史研究の諸問題』(丸善、1985)、『日本の産業遺産—産業考古学研究』I(玉川大学出版部、1986/2000)／II(玉川大学出版部、2000)、『近畿の産業博物館』(阿研社、1990)、『社会経済史学の課題と展望』(社会経済史学会創立60周年記念、有斐閣、1992)、『都市と文明』(ミネルヴァ書房、1996)、『通史』日本の科学技術』第5巻2(学陽書房、1999)、『ツーリズム成長論』(慶應義塾大学出版会、2013)、編共著に『産業遺産を歩こう』(東洋経済新報社、2009)、翻訳書には監訳に『原色図録—金の世界』(監修・木村尚三郎)(東洋経済新報社、1984)、共訳に『フランス百科全書索引』(監修・解説・フルスト)(平凡社、1985)などがある。

伊東孝

講師紹介

日本大学上席研究員・産業考古学会会長



日本大学上席研究員。伊東孝都市環境計画研究室、日本大学理工学部教授、土木学会土木史研究委員会委員長、文化庁文化財保護審議会専門委員などを歴任。現在、内閣府「稼働遺産を含む産業遺産に関する有識者会議」委員、日本ICOMOS「技術遺産小委員会」主査、国指定重要文化財橋梁(永代・清洲・勝間橋)の長寿命化検討委員会委員長、岡田川中流部著名橋梁色彩検討委員会委員長、錦帯橋世界文化遺産専門委員会委員、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議委員、埼玉・富山県の文化財保護審議会委員、東京都江戸東京博物館運営委員会委員、「勝間橋をあげる会」代表、産業考古学会会長など。著書には単著に『東京の橋—水辺の都市景観』(鹿島出版会、1996)、『東京再発見—土木遺産は語る』(岩波新書、1993)、『水の都、橋の都—モダニズム東京・大阪の橋梁写真集』(東京堂出版、1994)、『日本の近代化遺産—新しい文化財と地域の活性化』(岩波新書、2000)など、共著には『四谷見付物語』(技報堂出版、1988)、『ダムをつくる—黒四・佐久間・御母衣・丸山』(日本経済評論社、1991年)、『水の東京』(岩波書店、1993)、『近代とは何か』(東京大学出版会、2005)、『鉄道遺構—再発見』(LIXIL出版、2016)などがある。

中田健一

講師紹介

大田市教育委員会石見銀山課課長補佐



広島県埋蔵文化財調査センター、島根県邑智郡石見町教育委員会を経て、1995年から大田市教育委員会。以後、石見銀山遺跡の発掘調査を主体とした遺跡の総合調査に従事し、調査報告書の執筆刊行から、世界遺産登録推薦書の作成、包括的保存管理計画の策定など登録への諸準備にあたった。登録後は、日本で初めてとなる世界遺産の範囲拡大(2010年)に取組み、現在は、遺跡の調査と保存活用、遺産価値の情報発信に日々携わる。国際記念物遺跡会議(ICOMOS)会員、国際産業遺産保存委員会(THICCH)会員、日本考古学会会員、産業考古学会評議員。『論集—石見銀山』(有斐閣、2002)、『別冊大岡—石見銀山』(平凡社、2007)、『日本の金銀山遺跡』(高志書院、2013)、『週刊—日本の世界遺産—石見銀山』(朝日新聞出版、2012)などへの執筆のほか、『島根県石見銀山遺跡の使用石材』(関西近世考古学研究会、2005)、『石見銀山遺跡に伝播した茶の湯』(関西近世考古学研究会、2006)、『石見銀山遺跡とその文化的景観の世界遺産登録』(明日への文化財)文化財保存全国協議会、2009)、『石見銀山遺跡とその文化的景観の保全』(遺跡内外の環境と景観)(奈良文化財研究所、2010)などの研究発表がある。

大島登志彦

講師紹介

高崎経済大学経済学部経営学科教授・産業考古学会理事



高崎市史編さん調査委員、群馬県交通政策連絡会議「豊かな交通部会」部会長、群馬県地域公共交通に関する有識者会議委員などを歴任。現在、安中市地域公共交通協議会会長、群馬県タクシー準特定地域協議会会長、前橋市公共交通マスタープラン策定協議会副会長、群馬県立歴史博物館 展示製作にかかる外部検討委員会委員、日本地理学会会員、人文地理学会会員、日本交通学会会員、交通史学会会員、産業考古学会理事。著書には単著に『群馬県における路線バスの変遷と地域社会』(上毛新聞社、2002)、『群馬・路線バスの歴史と諸問題の研究』(上毛新聞社、2009)、共著に『両毛を結んで—前橋駅100年の歩み—』(上毛新聞社、1989)、『上越線の80年』(郷土出版社、1997)、『車王国群馬の公共交通とまちづくり』(日本経済評論社、2001)、『群馬・産業遺産の諸相』(日本経済評論社、2009)、『新高崎市の諸相と地域的課題』(日本経済評論社、2012)、『群馬の再発見—地域文化とそれを支えた産業・人と思想』(上毛新聞社、2012)がある。

市原猛志

基調講演講師紹介

九州大学百年史編集室助教・北九州市門司麦酒煉瓦館館長・産業考古学会理事



九州地域産業活性化センター「遊学アイランド九州形成に向けた産業支援方策」委員、おりお未来21協議会歴史的建造物部会専門家委員、「明治日本の産業革命遺産—九州・山口と関連地域」情報発信業務企画提案評価委員会委員、日本建築学会近現代建築物全国調査特別ワーキンググループ九州・沖縄地区幹事、九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の評価報告書に基づく取り扱い検討委員会委員などを歴任。現在、日本建築学会、日本機械学会、文化資源学会等学協会会員、福岡県近代化産業遺産行動指針指導委員、中間市文化財専門委員、中間市文化遺産活性化実行委員会副委員長、奈良少年刑務所を宝に思う会発起人、NPO法人北九州COSMOSクラブ理事、NPO法人J-heritage理事、九州伝承遺産ネットワーク理事、産業考古学会理事(Web担当)、など。北九州市産業観光パンフレットなども監修。著書には単著に『北九州技術革新史(全体編)』(北九州産業技術保存継承センター、2011)、共著に『産業遺産を歩こう』(東洋経済新報社、2009)、『日本炭鉱都市』(邦題・ライフ出版社(韓国)、2013)、編共著に『北九州の近代化遺産』(弦書房、2006)、『福岡の近代化遺産』(弦書房、2009)、『筑後の近代化遺産』(弦書房、2011)などがある。

